

Hello! FUJISEI

No. 142

神奈川県や兵庫で受動喫煙防止条例が制定されるなど、学校や体育館、病院などの公共的な場所を全面禁煙にする動きがさらに徹底されそうですが、喫煙が健康に良くないと分かっても、喫煙できる場所が少なくなっても、愛煙家にとっては禁煙のハードルは高いようです。

しかし、喫煙は、さまざまながんの原因の中で、予防可能な最大の原因です。

厚生労働省の「平成23年国民健康・栄養調査結果の概要」によると、現在習慣的に喫煙している人の割合は、男性は32.4%、女性は9.7%で、前年に比べて男性は変わらず、女性は増加しています。年代別にみると、最も高いのは男性は30歳代の43.9%、女性も30歳代で16.6%でした。次いで高いのは、男女とも40歳代で、それぞれ40.2%、16.5%となっています。

※現在習慣的に喫煙している人：これまで合計100本以上または6か月以上たばこを吸っている(吸っていた)人のうち、「この1か月間に毎日または時々たばこを吸っ

健康に良くないと分かっても…

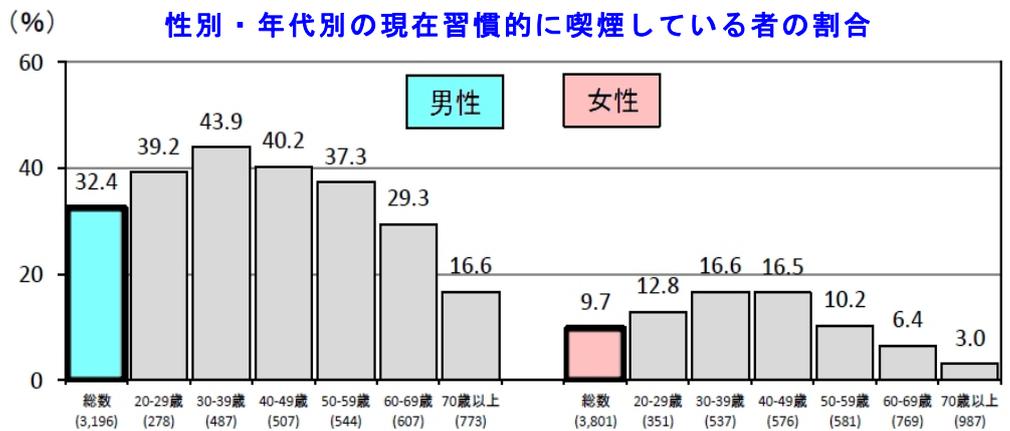
まだまだ高い喫煙率 男性32.4%、女性9.7%

ている」と回答した人
平成15年からの年次推移をみると、8年間で男性は46.8%から32.4%、女性は11.3%から9.7%となっています。

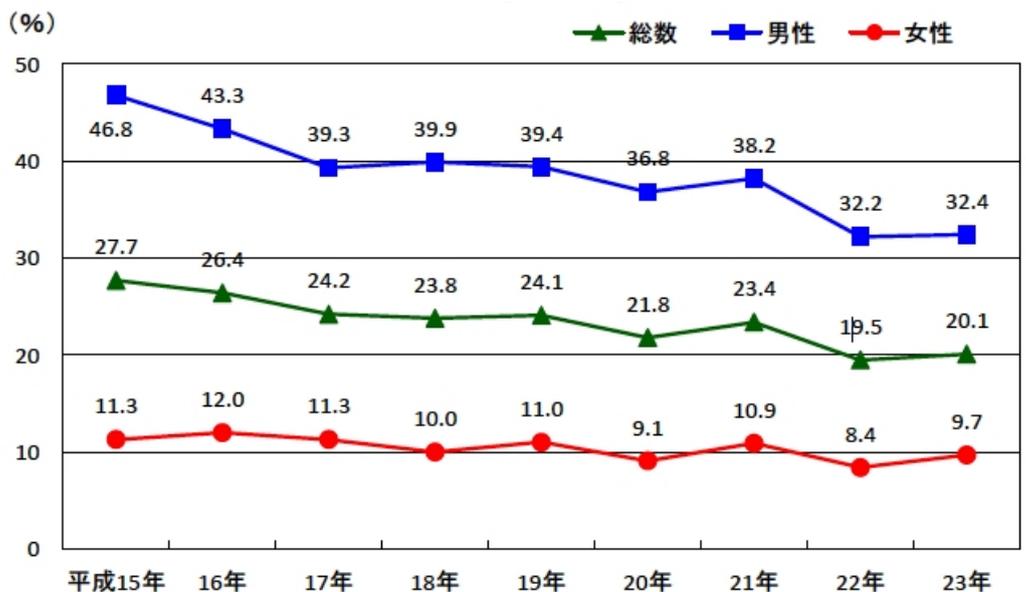
1日に21本以上吸う人の割合は、

男性14.7%、女性5.4%で、前年に比べ男女とも減少しています。たばこをやめたいと思う人は、男性32.8%、女性42.8%で、前年に比べ男性で3.1ポイント、女性で0.8ポイント減少しています。

性別・年代別の現在習慣的に喫煙している者の割合



習慣的喫煙者の割合の推移(20歳以上) (平成15年~23年の年次推移)



厚生労働省「平成23年国民健康・栄養調査結果の概要」より